



かんかん森

コモンミールでの食事風景。時間はハラハラで、あくまでゆるい調が、普段は7人揃えば多いほうとか

カズコさんは最初こそ手土産を持参したり、ユウジさんが食べないときは遠慮したりしていたが、今ではユウジさんとカズコさんの予定が「2人の夫」のように、彩名さんのカレンダーに書き込まれている。残り物でお弁当まで作ってもらえるカズコさんを、会社の同僚たちは「料理上手の男ができたんだ」と思っている。

妻の女友達との「プラス」生活に寛容なユウジさんは、「もともと会社でもおはさんおじさんと呼ばれるほどの女の子ばかりの中でも平気。夫婦2人じゃ会話にも限界があるけれど、カズコさんとサラリーマン同士、仕事の話をすると、DVDやゲームに熱中すると壁トアもなくも引

余った部屋を友達に
「飯だけの『部分同居』を通り越して、『友人と一緒に住んで家族』になっているのは、ファッシオン通販会社「ピーチ・ジョン」社長の野口美佳さん(40)だ。一緒に暮らすのは、事実婚のパートナーと3男の光太郎くん(10歳10カ月)に加え、女性の友人と

「ネオ結婚」のカタチ

こんな結婚なら楽しい

結婚制度は相変わらず硬直化したまま。だが、カップルたちは事実婚、別居婚、週末婚などのさらに先を行く「ネオ結婚」を選んでいる。夫婦関係を見直し、子育てにも快適。実践者たちを訪ねた。

編集部 木村恵子 ライター 白河桃子

夜8時、「たいたい」とマスコミ勤務のユウジさん(37)が帰ってくる。今夜のメニューは鯛のあらでだし汁をとったトムヤムクンスープとタイカレー。味の決め手となる青唐芋ペーストも自家製。女優ジュリエット・サイナーの仕事をしている妻の井上彩名さんは、日経新聞のサイトの連載エッセーにもレシピを添えるほどの料理の達人である。

「たいたい、おなかすいた」
少したつと、もう一人がドアを開けた。歩いて3分のマンションに住むメーカー総合職のカズコさん(33)だ。

夫だけでは物足りない
3人をろって、「いただきます」です。食事が終わると、女2人は後片付けとおしゃべり。三高イメメンなのに「中身は電車男」というユウジさんは、借りてきた仮面ライダーのDVDに没頭したら、まったく周りは気にしない。1LDKのスペースで3人と猫2匹がバラバラにくつろいでいる。土日も含め週3回はこんな夜。カズコさんがお茶だけを飲み、残業帰りに立ち寄ることもある。

「もも、家族と一緒に、きょうだいみたいな感じですよ」と、ユウジさん。

彩名さん夫婦は昨年3月に結婚して、千葉県市川市のマンションに越してきた。彩名さんが近所のバーでカズコさんと知り合ったのは、まだ新婚の夏ごろだった。

きこまれるので、家に3人でも普通にくつろげます」
この不思議なパランスの要である彩名さんは18歳から一人暮らしで、家にワイワイ人が集まる機会も多かった。むしろ結婚して、夫と2人だけになるとちょっと物足りない感じがした。

「食事は何人分作るのも、労力も費用も一緒。3人になってからは、どちらかがたキャンしても食事も余らない。作りがよいもあるし、女同士の会話が何よりもストレス解消。2人のうち、どっちが出張でいなくてもまじびいすね」
夫には分からなくても、女同士なら「どんなに凝った料理か」分かってもらえ。食卓の会話で鍛えられて、ユウジさんも食材の値段を気にするようになり、掃き掃除のユウジさんとカズコさん2人から「モウライ入いけど買って〜?」と電話が入るようになった。

「彩名さんの一番の心配は、すでにカレンシない歴が長いカズコさんが、今の生活が快適すぎて「まったく男を作る気がないらしい」ということだ。



山口美佳さん
パートナーが大切だからこそ、家事や子育てにがんばりがらみになる生活は嫌だったと言う

「ネオ結婚」を選んでいるのは、子育て世代ばかりではない。「子育てが一段落して夫と向き合う時間が増えたら息苦しい」という夫婦が増えているけれど、そういう時、離婚じゃなくて「卒婚」したらいと思うんです」

「卒婚のスズメ」の著者、杉山由美子さん(53)は言う。卒婚とは、従来の結婚から卒業して、自分たち合ったライフスタイルに変えること。杉山さん自身も歳上の夫と、昨年か歩いて25分ほどのマンションに別々に住み始めた。毎月1日と15日、お互いの誕生日は「一緒に飯を食べるといのが決まっていた」。

ライター 杉山さんと元々フリーの翻訳家だった夫は、共に自宅が職場で子育ても助け合い、夏ごとに家族旅行。娘が小学校の時はPTA役員も引き受け、周囲が羨むほどの夫婦仲だった。

だが、子育てが一段落するとむしろ「慣れた夫婦像」に縛られて

苦しくなった。仕事があっても早めに帰宅して一緒に飯を食べる。本当は1人でぶらりと旅行したくても、家族旅行は必須……。仕事をセーブして子育てに協力しなくては夫はありがたかったはずなのに、今度はもっと稼いでほしいとイライラするように一緒にいるより、「いがみあつて一緒にいるより、離れて暮らすことでお互いに窮屈感が解放されました。周りからはどう見られようと、自分たちがより幸せな方がよい」

杉山さんと一緒に暮らす娘2人も、「お父さんも肩の力が抜けて自然な感じ」と歓迎している。

長男の嫁嫌でバツ3

岡山県に住む横山芳美さん(55)は、いまバツ3。とはいえそれは、「書面上」。結婚20年たつて、同じ人ペーパー離婚と結婚を3回繰り返している。

夫の小林廣美さん(57)とは今でも、「会社から帰るとトイレや

愛・結婚・SEX

AERA COUPLES

好評発売中 定価480円(税別)

フランス流男と女

SEXレスから少子化問題まで「カップル」の関係日仏徹底比較

日本の独身男女1200人の本音

私が結婚しない理由、結婚できない理由

重松清 vs 桐野夏生

「悪女論」
蝶々・林真理子の「悪女論」
「40歳からの結婚」で幸せになる
妻たちのSEX白書
夫たちのSEXレポート

一条ゆかりのシニアにアドバイス
新「冬のソナタ」
フランソワ・オゾン
中村江里子



横山さん・小林さん夫婦
ケンカをしても、「もう別れられんよな。だってもう別れてるんだから」が2人の合言葉



その彼氏、ゲイの友人とその彼氏。いま寮生活の高3の長男と高2の次男、別れた元夫と暮らしている小島の長女も時々やってくるし、別の友達も出入りする。

「もし家庭の区切りなんてほとんど分かりません。そんなの意味ないって感じですよ」

大家族は今年2月から。広めのマンションに引っ越したのをきっかけに、「フリで」友人に、「家賃

多くの「大人手」で育児

好きで結婚するのに、画一化された生活スタイルがネックになって、一番大事な気持ちまで変わってしまふ。だったらスタイルにこだわらなければいい。新しいパートナーと同じ間違いを繰り返したくないと思ひ、友達との大家族生活を選択した。

夜8時ごろ、野口さんは保育園に先太郎くんのお迎え。帰宅する

な」で余っている部屋への同居を持ちかけてみた。過去に2度結婚して2度離婚した元夫との結婚生活の失敗が、頭にはあった。

「昼間、友がどんなに働いても、家に帰ればどうしても家事や育児は女にかかってくる。男は暮らしの趣味的な部分にはこだわって、育児を含め生活機能のオーガナイズは結局女。そうなのと言いたくないのに「私だって稼いでるのになんで私だけ……」、疲れて卑屈な気持ちになっちゃうんです」

「おかえり」と大家族が出現して、料理好きなゲイの友人が用意してくれた夜ご飯がすぐ食べられる。それ週4ほど外食だったが、今では週1程度に減った。なににより家が楽しい。食事の後片づけもみんなで。リビングでは誰かともなく光太郎くんが遊び相手をしてくれる。疲れた人はそれぞれ部屋に入るし、仕事をしたいなら机に向かう。とにかく自由で気を配らなくていい。

「正直子ども相手は1時間が限界。お母さんが一人で長時間向き合っていないといけないから、きいて目がついてくる。みんなで子育てすれば、いつもニコニコした人が代わり代わる相手だから、子どもにとってもいいんです」

多忙の野口さんが保育園に迎えに行けない時は、友人が助け負けてくれる。たまたま手が空いた者が洗濯や掃除などで、ペーパーシッターもお任せさんも不要になった。「大人手がたくさんあることが育児には何よりも大切だと感じる」

「仕事のコンディションを保つためにも私生活で苦労はしたくない。家族だけだ。近所からこそスケズケのを言いきることもあるけど、友達がいろいろとバランスがある。重要なのは干渉しないけど感性的に分かる合意関係。そういう友達がいれば、働く女性にとってこの生活スタイルはお勧めです」

70年代以降の日本は、核家族化や個人主義が進んだ。大家族は姿

を消し、家族はそれぞれ他人の入り隙のない閉じた関係になった。夫婦も家族もきはじめ、結婚も子育ても苦労や不安ばかりが強調される。そんな中で、ちろちろとい他人との距離を構築し、個人を尊重しながら、つながり合い助け合う生活を追求する人たちが増えてきている。

卒婚で夫婦をリセット

事実婚をしている教員の彦坂早苗さん(29)とプログラマーの木下孝二さん(29)もそんな一組。5歳と1歳の子とも任えているのは、東京・日暮里のクリエイティブハウス「かかんか森」だ。

外見は普通のマンションのよう。一家の部屋はキッチン、バス、トイレのついた41平方メートルのワンルーム。だが、施設内にはこの他に28世帯の住人専用が並ぶ広いダイニング、ペランダ、洗濯場、キッチン、ペランダ、洗濯場という住居共有の「 commons ペイス」がある。住人は1日1回夕食

「仕事の前まで追いかけていて話をすると」仲良し。だが、横山さんにとって、結婚後はずっと「長男の嫁を強いられたことは重荷だった。親類の集まりでは、当然の前のように料理を任せられ、給仕に専念。10年ほど前に義父に介護が必要になったときも、「長男の嫁の役目」という空気がどうも嫌だった。

「長男の嫁だからじゃなくて、一人の人間としておじいちゃんを介護したくて。立ち向かう相手は不正をする巨大企業やお役所だったら真つ向かうと文句も言えるけど、自分を苦しめるのが、田舎の親切な人たちが悪気なく当たり前を持ち続ける置かれた場合、どう対処したらいいのか……悩みました」

当時、女性学や夫婦別姓について勉強をしていた横山さんは、「事実婚」としての気持ちに楽になれなくて、法律婚に縛られなくていいのでは、と考

妹尾さん・風間さん夫妻
共通の趣味は「楽しく夫婦をやる」秘訣。いま両方と一緒に楽しんでいる

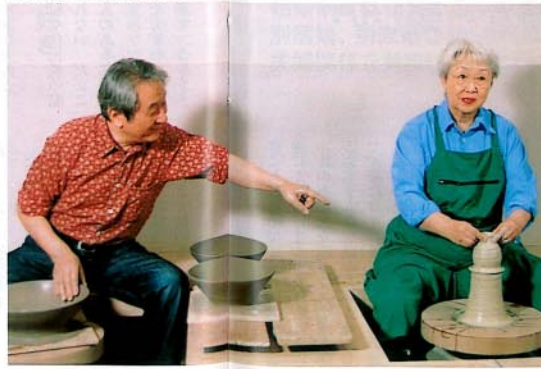


photo 鈴木愛子(上) 妹尾さん提供(下)

えるようになっていた。最初は猛烈に反対していた夫も、「好きにしていいよ。子どもたちも賛成。その後も事実婚と法律婚を繰り返していたのは、本音では法律婚を望んでいた夫とフエな関係でいたかったからだ」

横山さんは、「親類との付き合いも、夫婦関係も何も変わらないけど、戸籍上は「長男の妻」でないと思っただけで、気が楽になりました。やらされているんじゃないんで、自分が自発的にやっているとこそ思っています」

「もう1年君と一緒に暮らしたい

を作れば、あとは週3回他人が作った温かいご飯が食べられる。「コモンに子どもを育てたいけど、誰かが声をかけてくれる。廊下で1人で遊ばせても安心だし、広いスペースで思い切りハイハイができます」彦坂さん

共有スペースの掃除や週3回のコモンミールで、住人同士は顔見知りになる。信頼関係が育つているから、普通の賃貸のよみ見知らぬ隣人ではない。

「親類でもない、友達でもない。でもただの近所の人じゃなくて、共同で何かをする仲間。子どもも甘やかされたり、怒られた。親だけの尺度じゃなくて「怒る基準は人それぞれ」と分かるので大歓迎です」

と夫妻。子どもが寝てから彦坂さん一人でもコモンの飲み会に行くこともあるし、夫婦でさきまや年時、職業の人がいる多世代同居グチの聞き役もあればアドバイザーというわけだ。